

【背景と目指す姿】

- 那須地区は耕地の7割以上が水田であるが、近年、水稻栽培から転換して収益性の高い園芸生産に取り組む農業者が増加している。
- そうした状況において水田をフル活用するには土地利用型園芸作物の導入が必要となっており、平成27年から耕種農家を中心に加工用たまねぎを作付けしている。平成29年9月には「JAなすのたまねぎ部会」が設立された。
- 今後は機械化一貫体系の導入による生産性向上を図ることで産地化を進め、収益性の高い水田農業経営を確立する。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):6ha → 目標(令和2(2020)年度):12ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者への個別巡回推進や、導入推進セミナーの開催、各種広報誌への掲載による担い手の確保 ・ほ場整備計画地区における営農検討部会での導入推進と試作 ・人・農地プランの重点支援地域への推進による農地集積・集約化
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・定植・収穫について、共同利用機械を導入するとともに、全農のリースも活用して機械化一貫体系を確立 ・JA出資型法人等への機械作業の委託による作付拡大 ・調整作業の近隣農業者同士での共同作業体制の整備
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・全農とちぎを通じた、加工用たまねぎ需要事業者との安定した単価・量での契約取引の実施 ・リスク分散としての新たな契約取引先の開拓と市場出荷の検討



たまねぎ生産機械の導入による作業効率化